女性が力を発揮するこれからの地域防災

ノウハウ・活動事例集

内閣府男女共同参画局

はじめに

人口の半分は女性であり、女性の視点を反映することは、地域の防災力向上につながります。国連防災世界会議で採択された「仙台防災枠組2015-2030」においても、女性の視点の重要性が確認され、防災・復興に関する取組の基本的な考え方の一つとして世界的に共有されています。

女性の視点を取り入れた防災・復興体制を確立するためには、意思決定の場に女性が参画することが必要不可欠です。女性の参画割合が低いと、防災に対する平常時の備え、災害時、復旧・復興の各場面において女性の意見、女性と男性のニーズの違いが反映されにくい傾向があり、必要な支援が提供できなくなるおそれがあります。他方、「男性は仕事、女性は家庭」といった性別を理由とした固定的な役割分担意識がいまだに根強いことも影響し、現状では、地域の防災活動に携わっている女性は多いものの、リーダーとなっている女性は極めて少ない状況にあります。

令和2年12月に閣議決定した「第5次男女共同参画基本計画」では、都道府県・市区町村防災会議における女性委員の割合を令和7年に3割にすることを成果目標とするなど、防災の政策・方針決定過程における女性の参画を拡大するための取組を掲げています。

地方防災会議において女性委員の比率が高い地方自治体では、自主防災組織や消防団に所属する民間女性を委員として登用している事例もあります。こうしたことも踏まえ、今般、地域の防災活動に取り組む女性リーダーの先進的な取組事例を取りまとめ、あらゆる機会を捉えて全国各地に展開するため、「地域の防災活動における女性リーダーに関する実践的調査研究」を実施しました。この調査研究では、女性防災士や自治会・自主防災組織等の地域組織に所属する全国各地の女性防災リーダー等を対象としたワークショップを実施し、女性が地域で防災活動を行うに当たっての課題を抽出しています。また、防災に関する有識者からのヒアリングや、女性防災リーダーの活躍を支援する地方公共団体や民間団体の取組事例について調査・分析し、抽出された課題への対応策や具体的な事例を収集しました。これらの成果を取りまとめたものが本ノウハウ・活動事例集です。

本ノウハウ・活動事例集は、自治体や自治会・自主防災組織等の地域組織の皆様が、女性が地域の防災活動で活躍するためにどのような取組が必要かについてのヒントを得て、具体的な行動として実践するために作成したものです。自治体職員や自治会、自主防災組織など地域における活動に携わる全ての皆様が、女性の参画が地域防災力の向上にとって大きな役割を持つことについての理解を深めていただくとともに、男女共同参画の視点に立った災害対応の取組を一層進めていただきますようお願いいたします。

令和４年３月

内閣府男女共同参画局

女性が力を発揮する
地域防災

どんな課題があるだろう？

地域で女性が力を発揮するうえでの課題を抽出するために、地域で防災活動を行っている女性たちを対象にワークショップを実施しました。その結果、自主防災組織、行政それぞれに、過去のルールにしばられている部分や、まだまだできることが多く見つかりました。

ワークショップで聞こえてきた
地域の防災士や自治会長の女性たちの声

地域に昔から住んでいる有力者がリーダーになっているから、
新しい女性は入りにくい…
活動したいと思ったとき、どうすればいいの？

防災組織に女性が入ることになっているけれど、
実際は“女性はお手伝い”
自分の想いをどうしたら実現できるの？

「組織のトップは男性しかできない」と言われた…
女性はリーダーになれないの？

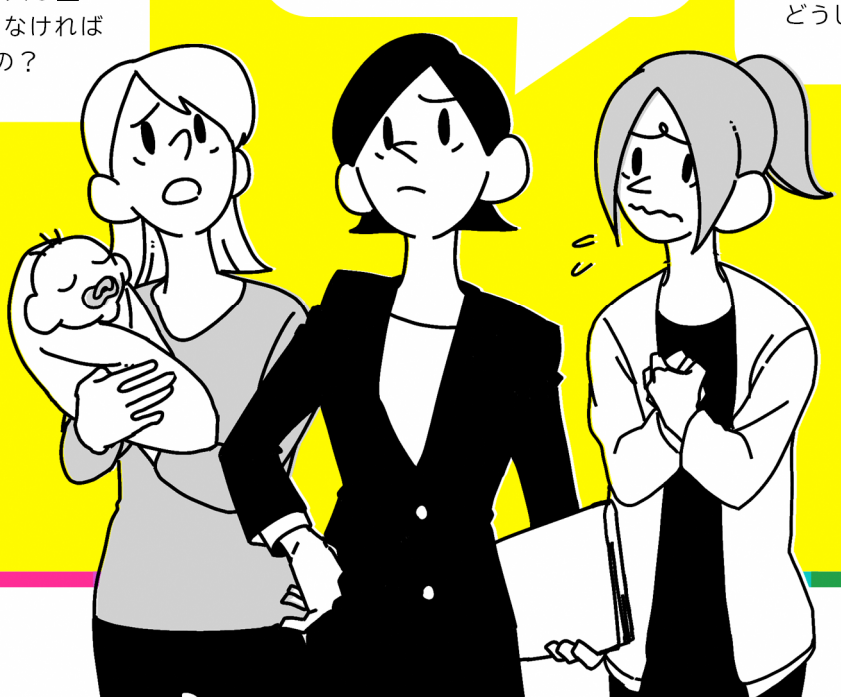
地域で活動するには
肩書や知名度が必要…？
どうしたら活動できるの？

防災研修を受けるためには自治会からの推薦が必要…
活動したいと思ったとき、
そもそもスタートラインに立てないの？

防災活動が男性中心に行われている…
平時も災害時も、女性が主体的な担い手であることをみんなが理解するにはどうしたらいいの？

家庭や仕事との両立が大変…
少ない人数で膨大な量の仕事を完璧にしなければならないの？

組織に入ったばかりの女性は、
会議で意見を言えない…
どうしたら会議で発言できる？



『女性が力を発揮する これからの地域防災』

本書は、地域で実際に防災活動をしている女性たちの声を元に次の２部で構成しています。

1 ノウハウ集

「地域のギモン」、「行政のギモン」の観点から、地域の防災活動で女性が力を発揮するための取組のヒントをまとめています。

2 活動事例集

地域の防災活動で女性が力を発揮している
１２団体の取組を紹介しています。

- 有識者からのメッセージ
- 女性が力を発揮するためのポイントチェック
- お役立ち情報

＜ジャンプマークについて＞

p.24 ①1

このマークは、活動のノウハウに関連する事例が掲載されているページと項目を示しています。具体的な取組を知りたいときは、該当する活動事例を参照してください。

p.23 Q1A1

このマークは、活動事例に関連するノウハウが掲載されているページと項目を示しています。
解決できる悩み・疑問や、他のノウハウを知りたいときは、該当するノウハウを参照してください。

これからの地域防災

女性が力を発揮するためのノウハウ集

Q&A

ノウハウ集の目次

地域で女性が力を発揮するための活動のノウハウを
Q＆A形式でまとめました。

地域のギモン

Q1 地域の防災活動に関心を持ってもらうためのよい方法はありますか？ p.6

Q2 自主防災組織などの地域組織に女性がもっと参画するにはどうすればよいですか？ p.7

Q3 女性と男性がともに防災活動を進めるために、地域組織の体制を整えたいです。よい方法はありますか？ p.8

Q4 女性が主体となって防災に取り組みやすくするための工夫はありますか？ p.10

Q5 生活スタイルに合わせて関わり方を選べる組織にしたいです。どんな工夫ができますか？ p.12

Q6 女性が自分の考えや気持ちを伝えやすくするためのコツはありますか？ p.14

行政のギモン

Q7 防災活動をしたいと思う女性に対して、行政は何から始めるとよいですか？ p.16

Q8 行政が女性の防災人材を育成するときにできる工夫はありますか？ p.18

Q9 女性が継続して地域で防災活動をするために行政としてできることはありますか？ p.20

参加したくなる防災活動にする

Q1 地域の防災活動に関心を持ってもらうためのよい方法はありますか？

A1 防災以外の地域活動と結びつけてみましょう

防災研修や訓練だとハードルが高くても、お祭りや授業参観、運動会などの楽しいイベントと結びつけると、多くの人に参加してもらいやすくなります。

活動ノウハウ

✓ **お祭りに併せて**防災訓練を実施するなど、子供と一緒に参加したくなる工夫をする p.35 ⑥2

▲高校生と一緒に訓練（川向地区防災会）

✓ **子供会やPTAと連携**して防災訓練やイベントを実施することで、参加する機会をつくる p.39 ⑧2

A2 防災と日常をつなげて啓発活動を行いましょう

防災を自分事にできると、興味を持ってもらいやすくなります。
身近なテーマで企画の内容を考えてみましょう。

活動ノウハウ

✓ お茶を飲みながら、ちょっとした備え、知っておきたい知識、家族や自分を守る術を学ぶ**カフェ形式の訓練を実施**する

✓ **日常生活とつながる内容**のカリキュラムで防災を身近に感じられるようにする p.24 ①1

Q2 自主防災組織などの地域組織に女性がもっと参画するにはどうすればよいですか？

A1 組織の活動を見える化しましょう

自主防災組織の活動やイベントに参加するようになった女性が、
運営メンバーとして参画しやすくするために、組織の活動を見える化しましょう。

活動ノウハウ

- ✓ ホームページやブログ、SNSなどのICTを活用し、組織の**活動内容をわかりやすく紹介**する
- ✓ **誰が組織のメンバーとして活動しているのかわかる**よう、イベントではゼッケンなどを着用する p.38 ⑧1
- ✓ 組織の名簿には、世帯主ではなく、**実際に活動している人の名前を記載**する p.36 ⑦1

A2 他分野で活動をしている女性たちを巻き込みましょう

民生・児童委員や子育て・福祉・防犯・環境の団体など、様々な団体で多くの女性が活躍しています。既に地域で活動をしている女性は、活動の場や人脈、活動を上手く進めるためのノウハウを持っており、防災活動を行ううえでとても心強いパートナーになります。

活動ノウハウ

- ✓ 福祉分野での防災、環境分野での防災など、既に実施している活動に**防災をつなげ**、必要性を理解してもらう p.28 ③課題
- ✓ 他分野で活動している組織に女性たちと、自主防災組織などがつながれるよう、**行政につなげてもらう**

女性と男性がともに参画する体制をつくる

Q3 女性と男性がともに防災活動を進めるために、地域組織の体制を整えたいです。よい方法はありますか？

A1 組織のルールを決めましょう

地域の防災力の向上のためには、意思決定の場や計画の段階から、女性が参画することが不可欠です。男女比を規約に明記するなどルール化して、女性が参画できる組織の仕組みをつくりましょう。 p.36 ⑦1

活動ノウハウ

- ✓ 副会長を男女1名ずつにするなど、責任のある立場を**男女両方が担う**体制にする
- ✓ 組織の規約に役員の男女比を「男女各〇名」と**明記する**
- ✓ 炊き出しやトイレ設営にも男女両方が関わるなど、**役割を性別で固定しない**

川向地区防災会　規約　抜粋

・第6条（役員）
防災会には原則として、次の役員を置く。
会長　1名　副会長　2名（男女各1）　事務局　1名
班長　1名　副班長　2名（男女各1）　監査　1名
委員　若干名（消防　日赤　リーダー長　リーダーなど）

▲規約で役員を「男女各1」と明記し、男女半々の人数で活動している（川向地区防災会）

コラム：経験者のことば

「リーダー」という言葉から、どんな人を想像しますか？

流山子育て
プロジェクト 代表

さまざまなリーダー像があっていい。活動を共にするメンバーには、団体の旗振り役だけでなく、それぞれのリーダーシップがあると思っています。各々が安心してそれぞれのリーダーシップを発揮できるよう、環境を整備するのがリーダーではないでしょうか。

p.44 ⑪

A2 役割を担う人の数を増やしましょう

役割を担う人が増えるとお互いを知る機会も増え、
地域の中で次の世代が育ちやすくなります。

▲夏祭りでの役割を防災訓練での役割にスライドさせている（福住町町内会）

活動ノウハウ

- ✓ **1つの役を複数人で**担うなど、運営の中核メンバーの人数を増やす p.36 ⑦1
- ✓ お祭りや運動会など、地域行事での役割を防災活動に**スライドさせる** p.38 ⑧1
- ✓ 今まで1つの部で担っていた**活動を2つの部に分ける**など、仕事を細かく分担する

A3 地域でお互いに相談し合える関係性をつくりましょう

ルールを変えたり、新しい組織を立ち上げようと思ったとき、地域の中に相談できる人や経験・人脈が豊富な人が関わると、大きな力になります。

活動ノウハウ

- ✓ 長年、自治会・町内会等で活動しているなど、**地域住民からの信頼が厚い方や、地域に広い人脈を持つ方**などの意見を聞く
- ✓ 婦人会やPTA、民生委員など、**地域で既に活動している女性**に意見を聞く p.38 ⑧課題
- ✓ 人数の少ないグループで自由に意見交換や相談をし合えるよう、女性部会などの**女性の防災グループ**をつくる p.37 ⑦3

主体性を尊重し合う組織にする

Q4 女性が主体となって防災に取り組みやすくするための工夫はありますか？

A1 活動しやすくするためのツールを作ってみましょう

「地域で活動したい」と思った人が、気軽に始められるように、資料やグッズなどのツールを作成して活用しましょう。

活動ノウハウ

✓ 災害時のトイレの使い方を説明する紙芝居や、応急手当の説明をするためのイラスト・動画など、**説明するための資料**をつくる p.27 ②1

✓ 防災訓練やイベントなどで、ツールを使って**発表する場**をつくる

▲いばらき女子防災部が防災クイズの練習をしている様子（茨木市）

✓ 独自の**防災グッズをつくる**など、防災の啓発活動をしやすくするためのモノをつくる p.47 ⑫1

✓ 自作したモノを使って、防災啓発の**イベントやセミナー**などを地域で開催する p.47 ⑫1

▲ダンボールで簡易トイレを制作している様子（平塚パワーズ）

A2 得意なことを持ち寄って協力しましょう

新たな提案は、実現するためにさまざまな人の力が必要になります。
周りの人たちが得意なことを持ち寄って協力することで、誰かが提案したことを実現でき、
提案した人や周りの人たちの自信にもつながります。 p.37 ⑦2

活動ノウハウ

- ✓ 新たな提案やアイデアを**否定しない**
- ✓ 発案者が中心となり、話すのが得意、絵を描くのが得意、工作が得意、お金の管理が得意など、**得意なこと**を持ち寄って実現する
- ✓ **楽しんで**活動することを大切にする

▲女性が発案して劇が好きな方が台本を書いた防災劇（川向地区防災会）

A3 女性たちの活動を地域の男性が知る機会をつくりましょう

地域の男性が、女性たちがどんな活動をしているのかを知る機会があると、
理解が深まり、一緒に活動しやすくなります。
活動したいと思っている女性が地域の活動を知る機会も必要です。

活動ノウハウ

- ✓ グループを作り活動している女性たちに、地域の防災イベントの**ブースやコーナー**を担当してもらい、活動している女性たちと地域がお互いの活動内容を知り合う p.27 ②2
- ✓ 研修を修了した女性たちが、自主防災組織の役員など**地域の人たちを招待**して学んできた内容を発表する p.31 ④1
- ✓ 自主防災組織連合会などの活動報告会で、女性たちが活動を発表するなど、自主防災組織の**会長たちが女性の活動について知る** p.27 ②2

生活スタイルに合わせて柔軟に運営する

Q5 生活スタイルに合わせて関わり方を選べる組織にしたいです。どんな工夫ができますか？

A1 一人あたりの負担を減らしましょう

役割を担う人に大きな負担がかからないよう工夫することで、
家庭や仕事とのバランスをとりながら活動ができるようになります。

活動ノウハウ

- ✓ **部長や副部長を2人制にする**など、複数人で役割を担い、手分けしたり相談したりして活動する
- ✓ 組織全体での会議を短時間にするために、部や班で短時間の**小さな集まりを頻繁に**開く
- ✓ 1回あたりの**活動時間を短く**して参加しやすくする
- ✓ 曜日や時間帯にとらわれず、**自由な時間に活動**できる場所を確保する
- ✓ 話し合いやイベントの準備をする **時間帯を平日昼間や夕食時から外すなど、みんなで話し合って決める**

▲妻が地域活動を頑張ると、夫も協力する家族が多い（市名坂東町内会）

- ✓ 活動を手伝ってもらったり、イベントに一緒に参加するなど、活動に**家族も巻き込む** p.35 ⑥2 p.42 ⑩課題
- ✓ 活動の手順や内容をノートに記録するなど、**活動の内容を見える化**して、引継ぎをしやすくする p.38 ⑧1
- ✓ **役員を引退した方**などが、会議やイベント中の子供の見守りをサポートをする p.44 ⑪課題
- ✓ **子供が遊べるスペースの確保や託児サービス**を設ける p.24 ①1

A2 ICTなどのツールを活用して情報を共有しましょう

LINEなどのICTを活用すると、同じ時間に一箇所に集まって会議をしなくても意見交換ができるため、効率的に活動できます。

活動ノウハウ

- ✓ 必要な情報を記載できる**様式をつくる**など、会わなくても情報を共有できる工夫をする p.47 ⑫2
- ✓ **LINEやチャット、オンライン会議システム**などのツールを使って、会わなくても意見交換できるようにする p.43 ⑩1
- ✓ **高齢者向けにツール活用講座**を行い、誰もが使えるようにする p.43 ⑩1

女性防災クラブ平塚パワーズ
活動明細表

依頼先		
実施日・時		
場所		
特記事項		
集合時間		
参加者数（予定）		
パワーズ参加者		
駐車		
タイムスケジュール		

▲講習の依頼は様式に記入して共有（平塚パワーズ）

A3 柔軟に活動できる組織にしましょう

個人の生活スタイルに合わせて、参加の仕方や役割の担い方などを選べると、多くの人が活動に取り組みやすくなります。従来の運営方法を変えて、参画しやすい組織を目指しましょう。

活動ノウハウ

- ✓ 人それぞれの事情に合わせて、**可能な範囲で参加できる雰囲気**をつくる p.35 ⑥2
- ✓ 組織の運営も活動内容も**完璧を目指さず、次の世代が改善**していくポイントが見つかったと捉える p.37 ⑦2
- ✓ 計画どおりにできないことがあっても、できたことを認め、**「まぁ、いっか」と切り替える**
- ✓ 自分のライフスタイルの変化に伴って、**役員を辞めたり戻ったり**できるようにする p.35 ⑥2 p.39 ⑧2

自分の考えを発言できる環境をつくる

Q6 女性が自分の考えや気持ちを伝えやすくするためのコツはありますか？

A1 会議で話しやすくなる工夫をしましょう

自分の考えや気持ちを伝えることができるよう、
発言しやすくなる工夫を行いましょう。

活動ノウハウ

- ✓ 会議の主催者は、**出席者全員が発言**できるようにする p.34 ⑥課題
- ✓ 女性が少ない会議の場合は、**女性を複数入れる**ことで、発言しやすくする
- ✓ お互いの顔が見えるよう、テーブルを**コの字型や口の字型**に配置するなど座席の配置を工夫する
- ✓ 夫の代わりではなく、会議に参加する**女性が主体的に関わる**よう、参加する人の名前を名簿に掲載するとともに、自分の意見を言ってもらうよう促す p.36 ⑦1
- ✓ **女性部会**など、女性だけで話せる場をつくり、発言しやすくする p.37 ⑦3

▲口の字型の配置で発言しやすい工夫（川辺復興プロジェクトあるく）

▲女性だけで話し合える場をつくっている（川向地区防災会）

A2 会議や発表にそなえ準備をしっかりと進めましょう

伝えたいポイントをしっかり伝えることができるよう、事前に準備をしておくことが大切です。

活動ノウハウ

- ✓ 参加する前にしっかりと準備できるよう、会議の議題や講座の目的など、**何について話す場面なのか**を事前に共有する
- ✓ 配布する資料や話し方などをメンバー同士でアドバイスし合うなど、**事前準備の時間を確保**する p.47 ⑫1
- ✓ 専門用語などの難しい言葉だけではなく、**自分が普段使っている言葉**を使うよう促す p.47 ⑫1

▲自分の言葉で防災グッズの作り方を説明している（平塚パワーズ）

コラム：経験者のことば

自分で企画立案するためのプレゼン力を強化しています

NPO法人
とれじゃーBOX
代表

大阪市立男女共同参画センター（クレオ大阪中央館）のグループ活動では、「女性のための防災サロン」を開催しています。会議で上手く発言できない、発案が通らないなどの悩みを持つ女性たちが楽しくおしゃべりしながら、みんなでアドバイスし合い、人前で自分の考えを発信する方法を学んでいます。学んだプレゼン力を自分なりに地域で活かし、いきいきと活動できるようにしています。

活動をはじめる女性の一歩を後押しする

Q7 防災活動をしたいと思う女性に対して、行政は何から始めるとよいですか？

A1 同じ目的を持つ人や組織をつなげる機会をつくりましょう

一人の人が「やりたい」と思っている活動を、他の人も「やりたい」と思っているかもしれません。一緒に活動したり、困ったときに相談できる仲間がいると、活動の実行力が高まります。

活動ノウハウ

- ✓ **女性が気軽に参加できる研修やセミナー**などを開催する p.24 ①1
- ✓ 研修の修了生が参加できるメッセンジャーグループやメーリングリストを作成し、**研修終了後も**お互いにつながり、情報交換できるようにする p.33 ⑤2
- ✓ 受講者仲間、防災士仲間、子育て仲間、民生委員仲間など、**同じ目的を持つ人たちで**新たにグループを結成できるよう支援する p.33 ⑤3
- ✓ **活動報告会**などのイベントを開催し、研修の受講生と修了生が交流する機会をつくる p.33 ⑤2

A2 地域とマッチングしましょう

一人ひとりの希望に沿う活動を選択できるように、女性と自主防災組織などをマッチングしましょう。

活動ノウハウ

- ✓ 研修終了後に活動したい内容を面談などで把握し、活動できる組織を紹介するなど、行政が**活動したい女性と受け入れ側の地域組織**をつなぐ p.25 ①2
- ✓ 自主防災組織で**すでに活動している女性と、これから活動する女性**が一緒に受講できる研修を実施するなど、異なる立場の女性同士が交流する場をつくる p.26 ②課題

A3 地域防災の担い手の捉え方を広げてみましょう

「地域の防災活動」は、自主防災組織や自治会・町内会等にこだわる必要はありません。例えば、同じ小学校区、同じ市区町村など地域の範囲を広げたり、防災以外のテーマの活動の中で、防災にも取り組むことで、活動の場が広がります。

活動ノウハウ

- ✓ 市区町村内の**防災に関心のある女性たちが中心となって活動するグループ**の立ち上げや運営を支援する p.46 ⑫
- ✓ 福祉、子育て、食生活、環境、ボランティアなどの**他のテーマで活動しているグループ**の防災の取組を支援する p.44 ⑪
- ✓ 市区町村内外で継続的に防災活動に取り組んでいる女性に、自主防災組織などの訓練や活動の**アドバイザーになってもらう**

▲流山市の子育て中の女性16名で活動（流山防災プロジェクト）

コラム：経験者のことば

防災で地域の中の人や外の人とつながる

川辺復興プロジェクト
あるく 代表

p.42 ⑩

平成30年の西日本豪雨の後、支援物資を運びながら地域を回っているとき、LINEグループでのつながりがない方々が気落ちされているのを見ました。地域に住む人たちがつながれる場を作りたいという思いから、ボランティア団体に協力していただき、ごはんを食べに来ることをきっかけに集えるよう、団体として会場運営や広報を行いました。

人材育成の仕組みを工夫する

Q8 行政が女性の防災人材を育成するときにできる工夫はありますか？

A1 研修のカリキュラムを工夫しましょう

防災研修は、基礎的な知識を習得するだけでなく、
受講者が自信をもって地域で実践できる学びにすることが大切です。

活動ノウハウ

- ✓ 避難所での女性の困り事や、災害時の女性や子供に対する暴力に関する講義、避難所の体験を取り入れるなど、防災を**自分事として考えられるようなカリキュラム**にする p.40 ⑨1
- ✓ 一人ひとりが設定した目標の達成に向けて、講師のサポートを受けながら、自分でカリキュラムを組み立て、人前で実際に講義を行うまでの一連の流れを**実践する** p.32 ⑤1
- ✓ 地域で既に活動している女性に参加を呼びかけ、**カリキュラム作成の段階から協働して研修をつくりあげる** p.29 ③1

A2 研修の仕方を工夫しましょう

ワークショップやOJTの要素を取り入れるなど、実際に活動する際に役立つスキルを身に付けたり、担い手としての主体性を引き出す工夫をしましょう。
※OJT(OJT(On-the-Job Training)：具体的な仕事を通じて、仕事に必要な知識・技術・技能・態度などを指導・教育する手法)

活動ノウハウ

- ✓ **ワークショップを多く**取り入れ、参加者同士の意見交換を通じて、気づきを促す p.27 ②1
- ✓ 地元大学の先生や地域の実践者が**スーパーバイザーとして伴走**しながら実践を積む p.32 ⑤1
- ✓ 受付や会場の設営を受講者が行うなど、**受講者同士が協力**する機会をつくる p.31 ④1

A3 参加者の募集方法を工夫しましょう

募集の声かけをどの部署からどんな方法で行うかによって、参加者の所属や年齢層が大きく変わります。研修の目的に合わせ、他部署からの募集も検討してみましょう。

活動ノウハウ

- ✓ 男女共同参画部署からは、「これまで防災活動に関わっていない女性」を対象に、危機管理部署からは、「自主防災組織の女性」を対象に声をかけるなど、**いくつかの部署が連携して参加者を募る** p.26 ②課題
- ✓ 福祉・環境・食生活・子育てなど、地域ですでに活動している**他分野の団体**に声かけをする p.28 ③課題
- ✓ 研修のテーマや対象者に合わせ、関わりのある**他部署のネットワークを使って**、対象となる女性たちに情報を届ける

A4 女性と男性がともに学び合う機会をつくりましょう

男女共同参画の視点から防災を考えるには、女性と男性がともに男女共同参画について学び、お互いを理解し合うことが必要です。

▲男女が同じグループでワークショップする様子（四日市市）

活動ノウハウ

- ✓ 男女共同参画担当部局や男女共同参画センター、男女共同参画の推進に取り組むNPOなどと連携して、**防災と男女共同参画をテーマとした研修**を実施する
- ✓ 男性参加者が多い研修と女性参加者が多い研修で**同じ内容の研修を実施**するなど、男性も女性も一緒に、防災や男女共同参画について学べるようにする p.30 ④課題
- ✓ ワークショップで、**同じ地域の男女が同じグループ**になるようにするなど、お互いの考えを知る機会をつくる p.30 ④課題

女性の継続的な活動を支える

Q9 女性が継続して地域で防災活動をするために行政としてできることはありますか？

A1 活動をバックアップしましょう

女性の活動を支えるために、様々な面から支援しましょう。

活動ノウハウ

- ✓ 行政が主催する防災のワークショップなどで、実際に地域で活動する女性が受講者の前で説明する時間を設けるなど、講師とともに、**実践に近い形で練習する機会**を提供する p.27 ②1
- ✓ 女性たちの主体性に重きを置きながら、自主的に活動するために必要な**拠点を提供**したり、事務作業などを支援する p.29 ③2
- ✓ 自主防災組織に**講師ができる女性を紹介**するなど、活動する場を提供する p.29 ③2
- ✓ 活動について相談ができる**担当職員を配置**するなど、信頼関係をつくる
- ✓ **地方防災会議の委員**などにも積極的に女性を登用する p.45 ⑪2
- ✓ 活動のための**助成事業**を行う
- ✓ 女性が地域で活動しやすくなるよう、防災に男女共同参画の視点を導入することの有効性と必要性について、地域の**理解促進を図る**

A2 活動をPRしましょう

行政が女性の活動をPRすることが、活動の理解や信頼の確保につながり、
モチベーションが高まる、活躍の場が広がるといったよい効果が得られます。
知ってほしい女性の活動にスポットライトをあてましょう。

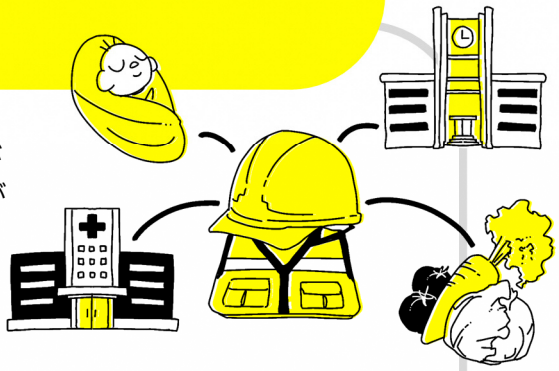
▲活動が市民活動センターの広報誌で紹介された（平塚パワーズ）

活動ノウハウ

- ✓ **ホームページや広報誌**に活動内容を掲載するなど、多くの人に女性たちの活動を知ってもらう機会をつくる p.25 ①2 p.46 ⑫課題
- ✓ **活動を紹介できるイベント**を開催するなど、PRができる機会を提供する p.25 ①2 p.27 ②2
- ✓ 全国や都道府県などが実施する**賞に応募したり、推薦したりする**ことで、女性たちの優良な取組を発信する

A3 活動する団体同士のネットワークをつくりましょう

地域には、様々な分野で地域活動を行っている団体があります。団体同士がネットワークを作り幅広な活動ができるよう行政として支援しましょう。
平時からのネットワークが、災害時の相互支援にもつながります。



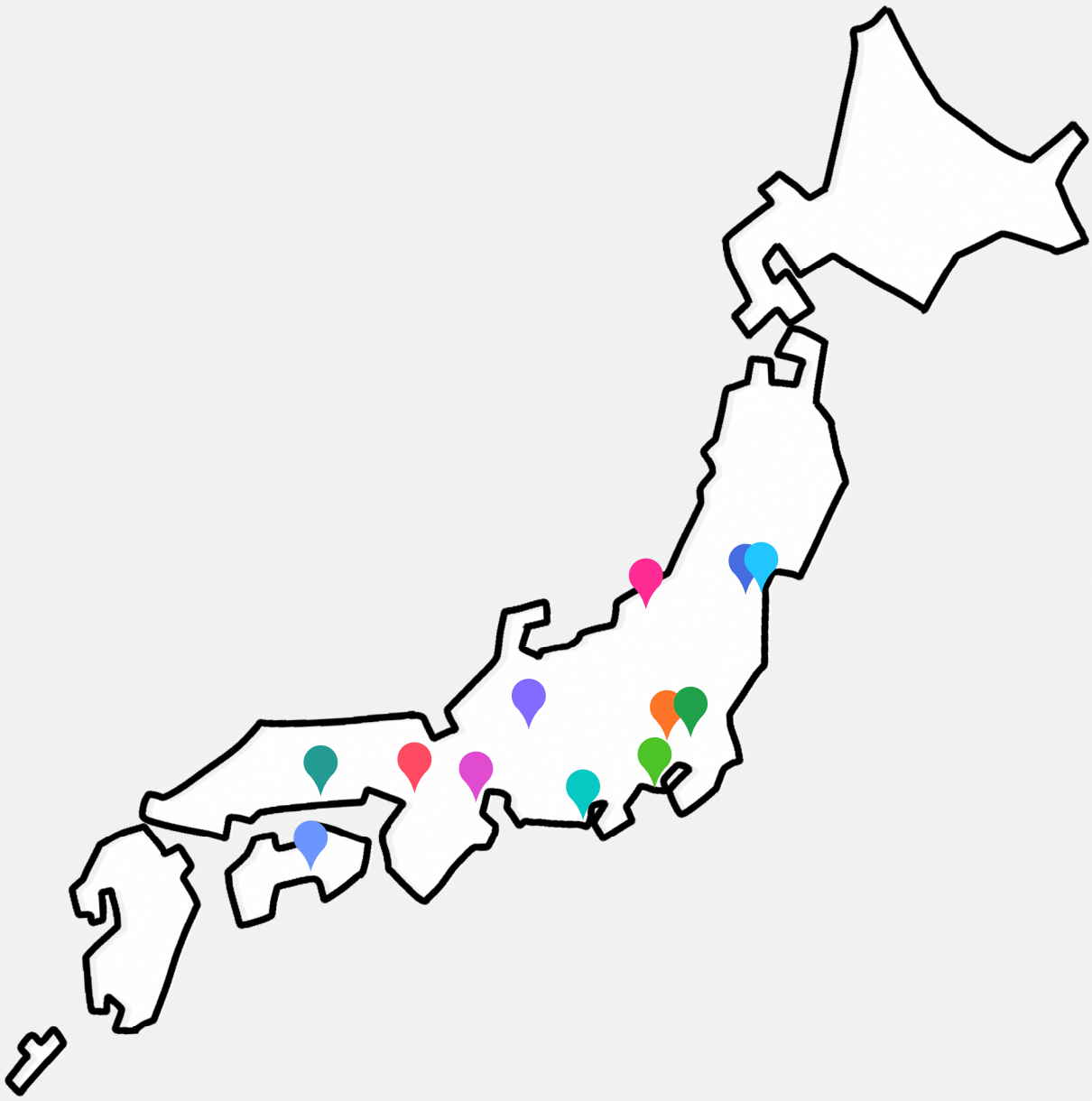
活動ノウハウ

- ✓ 福祉・環境・食生活・子育てなど、他分野の所管課と協力し、**防災をキーワードに**団体同士がつながる場をつくる p.29 ③1
- ✓ 防災をテーマに、自治会・町内会やまちづくり協議会など、**地域の団体同士をつなぐネットワーク**をつくる p.43 ⑩2
- ✓ 女性部会など、地域で活動する女性たちが**情報交換できる場**をつくる p.27 ②2
- ✓ **都道府県や大学などが中心となって、**都道府県内で防災活動を行う人たちがつながり、情報交換するネットワークをつくる p.33 ⑤2

参考にしたい！

女性が力を発揮する地域の取組

12の活動事例



事例集の目次

全国には、地域で女性が力を発揮するために、
様々な工夫をしている自治体や地域組織、団体があります。
ここで紹介する取組を、これからの活動に取り入れてみましょう。

1 練馬区 危機管理室 区民防災課　地域文化部 協働推進課 ―― p.24

2 茨木市 市民文化部 人権・男女共生課　総務部 危機管理課 ―― p.26

3 新潟市 危機管理防災局 防災課 ―― p.28

4 四日市市 危機管理課 ―― p.30

5 清流の国ぎふ防災・減災センター げんさい未来塾 ―― p.32

6 市名坂東町内会 ―― p.34

7 川向地区防災会 ―― p.36

8 福住町町内会 ―― p.38

9 特定非営利活動法人　御前崎災害支援ネットワーク ―― p.40

10 川辺復興プロジェクトあるく ―― p.42

11 流山子育てプロジェクト ―― p.44

12 女性防災クラブ平塚パワーズ ―― p.46

活動事例 1

東京都

練馬区 危機管理室 区民防災課 地域文化部 協働推進課

＃身近なところから少しずつ　＃学びの後の活動につなげる

取組概要

練馬区立防災学習センターでは、様々な視点から防災の知識や技術について学べる「ねりま防災カレッジ（平成24年度～）」を開講している。区民のニーズを踏まえ、徐々にカリキュラムなどを増やしてきた。講座では、「女性防災リーダー育成講座」や「乳幼児の保護者向け防災講習会」を開講。
また、区民の地域活動を支援する協働推進課と連携し、地域で防災活動を行いたい人と地域をつなぐための「つながるカレッジねりま 防災分野 共助コース（令和2年度～）」などを実施している。

活動のきっかけ

より多くの女性が防災の取組をはじめるきっかけをつくりたい！

阪神・淡路大震災をきっかけに、練馬区では区立の小・中学校を「避難拠点」に指定し、地域、学校、行政の三者が連携して防災活動を進めていました。その後、東日本大震災が発生し、避難所運営などにおいて女性参画の重要性が再認識されました。

これまで以上に、女性の視点を含めた防災対策の推進を目指し、女性を対象とした「女性防災リーダー育成講座」を開講しました。他にも、**「乳幼児の保護者向け防災講習会」など、防災意識の高い、区民の様々なニーズに応じたカリキュラムなどを展開**しています。

1 気軽に参加できる講座を開講

日常生活とつながる内容で防災を身近に感じられる

ねりま防災カレッジの「女性防災リーダー育成講座」では、被災地支援の経験を持つ**民間企業の方に登壇を依頼**し、区民が気軽に参加できるようにしています。

また、「乳幼児の保護者向け防災講習会」では、**乳幼児の保護者にターゲットを絞り**、防災を身近に感じられるカリキュラムにしています。
それぞれの講座は、区報やホームページ、SNSなど、募集情報を様々なツールで対象者に届ける工夫をしています。

p.6 Q1A2　p.12 Q5A1　p.16 Q7A1

▲乳幼児の保護者向け防災講習会

さらにいいこと！

日常生活の延長にある防災に関心を持つことで、その他のカリキュラムの受講や、実際の地域活動につながっている。子育て中の若年層の女性の参加が増えていることも大きな変化。

1 2 地域で活動を始めるときにバックアップ

受講後、自主防災組織などで継続して活動できる

「つながるカレッジねりま 防災分野 共助コース」では、防災に関する知識だけでなく、「**これから自主防災組織に入る側**」として、活動するにあたっての心構えなどについても学んでいます。

修了生との面談を通して、活動の場となる自主防災組織や団体などのマッチングを行っています。一人ひとりが希望に沿った活動を選択できるよう、丁寧に話し合います。

修了生の活動の様子をホームページ・広報誌へ掲載したり、活動を発表する場としてイベントを行うなど、活動をPRする機会を提供しています。新たな団体を立ち上げる場合にもサポートするなど、**地域で活動を始める際のバックアップ**も行っています。

p.16 Q7A2 p.21 Q9A2

▲活動PRイベント

▲修了生との面談

これをやったらうまくいった！

受講生同士のみならず、受講生と地域組織がつながることで、実際の活動への参画につながっている。

1 3 自主防災組織と行政の連携

地域の住民も行政も、同じ目的に向かって話し合える

女性の意見の重要性についても記載した「避難拠点運営の手引」を作成し、**地域と学校、行政の三者が連携**し、避難所の運営方法について議論を進めています。また、地域の自主防災組織が訓練を実施する際には、区職員も参加して技術指導を行うなど、自主防災組織と行政が日頃から連携しています。

東京都
練馬区 危機管理室 区民防災課
地域文化部 協働推進課

＜連絡先＞
練馬区立防災学習センター
電話：03-5997-6471

区の担当者からのメッセージ

災害時は、自分自身で命を守る必要があります。「ねりま防災カレッジ」では、発災時の身の守り方をはじめ、災害に対する事前の備えを学習・体験できるようなカリキュラムにしています。また、様々な防災の視点からカリキュラムを実施することで、対象者が変わり、より身近に防災を感じていただけるようにしています。また、毎年新しい内容を取り入れ、継続的に受講してもらえるように工夫しています。

活動事例

2

大阪府

茨木市 市民文化部 人権・男女共生課 総務部 危機管理課

＃女性の防災リーダー育成　＃発信力　＃参加者の増加

取組概要

平成24年度に女性を対象とした防災講座を開始。平成26年度からは、危機管理課と人権・男女共生課の共催により、「女性防災リーダー育成講座」を実施し、現在も継続中。

女性防災リーダー育成講座 ▶

活動のきっかけ

男女共同参画の視点からの防災の取組を進めたい！

男女共生センターローズWAM主催の「女性を対象とした防災講座」を担当していた人権・男女共生課が危機管理課に共催を持ちかけたことをきっかけに、両課の連携を開始。**部署を超えて、危機管理課の所管である自主防災組織の女性会員を対象とした「女性防災リーダー育成講座」を共同で**始めました。

また、地域における方針決定過程に参画できる女性リーダーの育成を図るため、市の自主防災組織連絡会に「女性部会」を設置し、これまでに「女性防災リーダー育成講座」を受講した女性たちが会員となって、女性の視点での防災対策の検討を行っています。

課題

人権・男女共生課からの呼びかけだけでは、講座後に女性の意見がどのように地域に伝わるのか見えなかったが…

人権・男女共生課では、広く「女性を対象」として参加者を募集すると、講座後の地域で女性の意見がどこまで反映されているのか見えにくいという課題がありました。一方、危機管理課では、「自主防災組織の女性を対象」に声をかけると、参加者の年齢層が高くなり、かつ、参加者が固定化されてしまうという課題を抱えていました。

そこで、**人権・男女共生課と危機管理課が連携**して参加を募った結果、年齢も所属も異なる様々な女性が参加する講座が実現。**新規の参加者の増加**につながりました。自主防災組織ですでに活動している女性と、これから活動する女性が交流することで、活動の理解も進み、新たなつながりが生まれています。

p.16 Q7A2　p.19 Q8A3

▲ワークショップの話し合い

2 1 女性防災リーダー育成講座

防災の知識や情報を自分の言葉で伝えることができる

「女性防災リーダー育成講座」では、会場にお菓子を置くなど、参加者同士が話やすい雰囲気づくりに努めています。**ワークショップを多く取り入れることで参加者同士の交流を促し、すべての参加者が自分の意見を発言できるよう工夫**しています。

p.10 Q4A1 p.18 Q8A2 p.20 Q9A1

これをやったらうまくいった！

紙芝居などのツールを作成することによって、人前で話す経験の少なかった女性も自信を持って説明できるようになった。

▲紙芝居で説明している様子

2 2 地域での実践をサポート

継続した女性同士のつながり、地域の理解が、活動の支えになる

防災に関心を持ち、地域で防災活動ができる女性が増えるよう、「女性防災リーダー育成講座」を定期的に実施することで、防災に関する知識を習得してもらうとともに、**女性同士の情報交換の場**にもなっています。

また、自主防災組織連絡会において「女性部会」の活動報告の機会を設けたり、防災訓練などで女性メンバーがブースを担当することにより、自主防災組織の会長たちに女性メンバーの活動を知ってもらえるようにしています。

p.11 Q4A3 p.21 Q9A2 p.21 Q9A3

さらにいいこと！

講座の場が、市内の女性たちのつながりを持つ機会となり、ネットワークづくりを促進している。会長たちが女性の活動を知ることで、活動の中で女性に意見を求めるなど、地域の中の意識に変化が起こっている。

大阪府
茨木市 市民文化部
人権・男女共生課
総務部 危機管理課

＜連絡先＞
茨木市立男女共生センター
ローズWAM
電話：072-620-9920

市の担当者からのメッセージ

女性の視点、多様な視点を取り入れた防災活動を促進することは、「女性だけでなく、すべての住民のみなさんの安全・安心につながる取組である」ということをより多くの方に知ってもらい、「自分の特色（強み）を地域防災に活かしたい」と考えてもらえるよう、人権・男女共生課と危機管理課が、それぞれの強みを活かし、取組を進めています。私たち職員も「できることをできる部署で」の助け合い。連携の秘訣です。

活動事例

3

新潟県

新潟市 危機管理防災局 防災課

＃多様な分野に防災の視点を　＃主体的に活動できる場づくり

取組概要

平成30年度から、女性防災リーダー育成講座「やろてば！防災女子カフェ」を開催。令和元年度には、新潟市防災士の会の部会として「新潟防災女子（NBJ）」を設立した。

▲NBJの研修の様子

活動のきっかけ

実際に地域で活動できる女性を増やしたい！

災害時の女性の課題の解決に向け、より多くの女性に防災活動に参画してほしいという思いから、「親子防災講座」を開始しましたが、子どもと一緒に楽しみながら防災意識を高めることに重点が置かれたため、地域の防災活動への女性の参画拡大にはつながりにくい面がありました。

そこで、**女性の防災リーダーの育成を目指した講座「やろてば！防災女子カフェ」を開始**。

また、女性防災士の活動の機会を増やすため、新潟市防災士の会に女性部会である「新潟防災女子（NBJ）」を設立しました。

課題

市広報誌での参加の呼びかけだけでは、その後の活動にはつながりにくかったが…

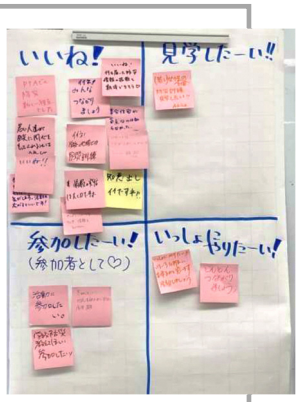
p.7 Q2A2
p.19 Q8A3

当初、講座への参加を市広報誌で呼びかけていましたが、講座後の実際の活動につながりにくいという課題がありました。

そこで、**地域で既に活動している様々な分野の団体に**、「現状、防災に女性の視点が足りない。女性の視点を取り入れた避難所運営ができるようにしたい。」という趣旨を説明し、参加を募りました。

その結果、多様な団体が参加。**各団体の活動に防災を取り入れてもらうことができ、実際の地域の防災活動につなげる**ことができました。

やろてば！▶
防災女子
カフェの様子▼



3 1 やろてば！防災女子カフェ

多様な活動に防災を取り入れて、地域での実際の活動につなげていく

食生活改善推進委員や運動普及推進委員、市内大学のボランティアサークルなど、**すでに様々な分野で活躍している女性を中心に参加を呼びかけ**、企画の段階から協働して講座を作りあげています。

呼びかけには各所管課に協力を仰ぎ、チラシの配付や人材の推薦を依頼する代わりに、各団体の活動のPRの場を提供するなど、各所管課との連携を促進するための工夫をしています。

p.18 Q8A1　p.21 Q9A3

これをやったらうまくいった！

分野を問わず、地域活動に積極的な女性たちを巻き込むことで、新たな人材の発掘と実際の防災活動への参画につながっている。

3 2 新潟防災女子（NBJ）

自由な発想で、主体的に活動できる

市が事務局を担い、女性防災士の主体性に重きを置きながら、自主的な活動を支えています。

毎年、研修会を企画・運営するほか、地域で防災活動を行う上での悩みや課題、成果などを共有し、地域の枠を超えた女性防災士の横のつながりを深めています。また、既存の地域組織で思うように活動できない女性にとっては、**地域組織以外で自分のやりたいことを実現できる場所**になっています。

p.20 Q9A1

さらにいいこと！

学校や地域での防災講座で講師を務めるなど、アウトプットの機会を活かして、女性防災士の活動を地域へPRしている。

新潟県
新潟市 危機管理防災局 防災課

＜連絡先＞
新潟市 危機管理防災局 防災課
電話：025-226-1143

市の担当者からのメッセージ

平成30年度から取り組んできた「やろてば！防災女子カフェ」ですが、毎年、参加者の皆さんがつながり、防災活動の輪が広がっています。

平成27年度に7.1%だった新潟市防災士の会の女性割合も、令和2年度には15.5%と年々高まっています。

今後さらに、防災活動における男女共同参画を進め、誰もが安心して暮らせるまちを目指します。

活動事例

4

三重県

四日市市 危機管理課

＃男女共に男女共同参画を学ぶ　＃地域の力で想いを形に

取組概要

平成17年度から、防災リーダー養成講座「四日市市防災大学」を実施。平成25年度からは、女性住民を対象とした「防災・減災女性セミナー」を開始し、現在は「四日市市防災大学」と合同で実施している。

活動のきっかけ

地域全体で男女共同参画の視点を取り入れた施策に取り組むことが必要！

東日本大震災の教訓から、危機管理室（当時）の職員内で、「地域の防災活動には女性の視点が不可欠。女性の参画を強化しなければ」といった課題意識が高まっていました。

そんな中、内閣府より「男女共同参画の視点からの防災・復興の取組指針」が公表され、それを機に、市民文化部男女共同参画課と協働で女性セミナーを実施しました。その後、開始から既に8年が経過していた「防災大学」のカリキュラム変更に併せて、防災大学と連動した「防災・減災女性セミナー」を開始しました。

課題

セミナーの受講だけでは、地域の防災組織への参画につながりにくかったが…

p.19 Q8A4

平成25年度に女性セミナーを実施しましたが、それだけでは、受講生が地域の防災組織への参画につながりにくい状況がありました。

そこで、既存セミナーの「防災大学」と「防災・減災女性セミナー」を連動させ、合同で実施することにしました。**地域から推薦された人が学ぶ「防災大学」の受講者も**、女性セミナーと同じ講座を受講することで、**男女共同参画の視点からの防災について学ぶ**ことができます。また、**ワークショップでは同じ地域の男女の参加者を一緒のグループに配置**することで、セミナー修了者が地域の防災活動に参加しやすくなるよう工夫しています。

▲防災大学と女性セミナーの合同研修

さらに、同時期から自治会連合会が中心となり、男女共同参画の視点を取り入れた防災まちづくりに関するセミナーを各地区で開催するなど、市全体として、防災への女性参画の重要性を啓発するようになりました。

4 1 防災大学、防災・減災女性セミナー

受講者みんなが参加し、協力して講座を運営できる

自助・共助の活動の一つとして、講座の受付や会場の撤収など、運営の一部を受講者にお願いしていたことで、**受講者が運営に協力することが当たり前となり**、さらには受講者同士の交流につながっています。また、「防災・減災女性セミナー」の受講者には、男女共同参画課が開催する「はもりあフェスタ」などで、**自分たちが学んできた成果を発表する場を用意**しています。発表の場に地域の自主防災組織の方たちも招くことで、女性の視点からの防災について知るよい機会となっています。 p.11 Q4A3 p.18 Q8A2

▲女性セミナーの合同発表会の様子

4 2 避難所運営の手引きの作成

女性の視点から避難所の課題を見つけて、解決のためのアイデアを形にできる

自治会連合会からの企画・提案を受け、平成27年度には、自治会連合会、地区防災組織連絡協議会、市の3者が協働して「避難所運営の手引き」を作成しました。作成にあたり、「防災・減災女性セミナー」の受講生や地域で防災活動している女性によるワーキンググループを開催し、**チェックリストに女性の参画に関する項目を盛り込むことや、イラストを増やして分かりやすくすることなどの意見が反映**されています。

その後、作成した手引きを基に、女性の参加者だけで「避難所設営の訓練」を行いました。自治会や自主防災組織の役員など、男性たちは訓練の様子を見学し、女性の視点について学びました。

これをやったらうまくいった！

女性の参加者だけで訓練を行うことで、女性の視点から避難所設営における課題を洗い出すことができ、地域の自主的な活動による避難所案内表示板の作成につながった。

▲女性による避難所設営訓練

三重県
四日市市 危機管理課
（令和4年度 危機管理室から組織名称変更）

＜連絡先＞
四日市市 危機管理課
電話：059-354-8119

市の担当者からのメッセージ

四日市市では、男女共同参画についての施策検討を始める中で、自治会、自主防のリーダーの理解と協力があって、地域からの提案による避難所運営の手引きの作成に至るまでに3年かかっています。

男女共同参画の視点を取り入れた防災まちづくりは、行政だけでは広めることが難しく、地域の自主的な活動を大事にして取り組んでいただきたいと思います。

活動事例

5

岐阜県

清流の国ぎふ防災・減災センター げんさい未来塾

＃スーパーバイザー　＃卒業後のつながり

組織概要

清流の国ぎふ防災・減災センターは、岐阜県と岐阜大学の共同によって設置された機関。センターでは、平成28年に「げんさい未来塾」を開始。第1期生の1人は、「清流の国ぎふ女性防災士会」を設立。

活動のきっかけ

実際に地域で動ける人を育てたい！

これまで全国各地で行われてきた地域防災の人材育成のための研修では、受講した後の活動につながらないことが課題でした。
そこで、人材育成の目的を「実際に地域で動ける人を育てること」と定義し、一人ひとりに合わせた取組を行うことにしました。

大学と行政が連携して取組を進め、参画する人の多様性、主体性を意識するようにしています。

5 1 スーパーバイザーの伴走

テーマ決めから講義まで、講座づくりを実践しながら学べる

書類選考と面接によって選ばれた受講生には、県内のNPO法人・地域の防災団体で活躍している人や防災関係の大学教員などのスーパーバイザーがつき、1年間、各受講生の防災活動を伴走支援します。一人ひとりが設定した目標の達成に向けて、自分でカリキュラムを組み立て、人前で実際に講義を行うまでの一連の流れを、実践しながら学びます。

スーパーバイザーたちは月に1度会議を開いて、受講生の進捗状況を共有したり、育成の進め方などの認識合わせを行っています。

p.18 Q8A1　p.18 Q8A2

▲げんさい未来塾のイベントの様子

さらにいいこと！

卒塾生の半数は地域の自主防災組織で活動しており、地域組織には参画していない人も、防災に関する活動を継続することができている。

5 2 ネットワークづくり

身近なロールモデルが見つかる

中間報告会や卒塾式、地域住民を対象とした講座など、1年の間に数多くのイベントを実施しています。これらは、塾生同士だけでなく、塾生と卒塾生が交流するよい機会にもなっています。また、卒塾生が参加するメッセンジャーグループやメーリングリストがあり、卒塾後もお互いに情報交換ができるようにしています。県内各地域で卒塾性が増え、活動のつながりも濃くなっています。 p.16 Q7A1 p.21 Q9A3

さらにいいこと！

卒塾生の活動を知ることで、お互いの学びになり、身近なロールモデルを探すことができる。

5 3 清流の国ぎふ女性防災士会

研修の学びを活かして、自分らしい活動ができる

げんさい未来塾の1期生として学んだ女性は、女性防災士の少なさや、女性が地域で活動する難しさを感じ、「清流の国ぎふ女性防災士会」を立ち上げました。

仕事をしながら活動している女性が多いため、団体として持っている情報をすべてメンバーに共有し、できる時に参加できるようにしています。

地域では上手く活動できない、なかなか地域の理解を得られないといったメンバーが多いことから、女性防災士会主催で住民向けの講座を開催し、メンバーが講義を行うなど実践の場を提供しています。 p.16 Q7A1

さらにいいこと！

意見の受け取り方や合意形成の手法、ファシリテーターの仕方など、げんさい未来塾で学んだことが活動に役立っている。げんさい未来塾の地域版を女性防災士会の中で実施している。

岐阜県
清流の国ぎふ防災・減災センター げんさい未来塾

<連絡先>
清流の国ぎふ防災・減災センター
電話：058-293-3890

代表者からのメッセージ

げんさい未来塾では、「頑張りたい人を応援する」ことを大事にしています。興味がない人に興味を持ってもらうことはとっても難しいですが、興味を持ってくれている人と一緒に活動することはそれほど難しくはありません。また、安心して失敗できる環境づくりも大事です。失敗は、できていないこと、気づいていなかったことに気づくチャンスであり、宝物です。私たちはそんな環境を大事にしています。

活動事例 6

宮城県 仙台市

市名坂東町内会

＃できる範囲でゆるやかに　＃助け合い　＃集会所

組織概要

平成20年4月設立。平成23年3月11日に東日本大震災を経験。震災前から、役員全員が女性で構成されている。

備蓄倉庫

活動のきっかけ

災害時は地域での助け合いが大事！

町内会の設立時は、新興住宅地のため、多くの人が働き盛りで町内活動の時間をとることができませんでした。 そのような中、活動ができる人を募ったところ、女性が集まり、それ以降女性が中心となって活動をしています。

会長がチリ地震の津波と宮城県沖地震を経験していたことから、災害時に地域で助け合うことを大切にするため、町内会のスローガンの一つに「災害、防災には適切に対応支援活動ができる町内会」を掲げました。

課題

女性たちが自分の言葉で発言することが難しかったが…

当初、会議に出席する女性たちから、「夫の意見は〇〇です」「パパは〇〇と言っています」という発言も多く、自分としての意見をなかなか言ってもらえませんでした。

そこで、「会議に出ているあなたの意見を言ってね」と伝え、1人ずつ順番に意見を聞き、会議の場にいる全員に必ず発言してもらうように工夫しました。そうした会議を重ねる中で、徐々に女性たちが自覚をもって発言できるようになりました。 p.14 Q6A1

6-1 集会所の設計・建設

女性たちで集会所を設計して、活動しやすくする

地域の人が集まる場所が、町内になくてはならないという思いから「集会所」の建設を決め、設計の段階から女性たちが意見を出し合い、災害時を想定して様々な工夫をしました。災害時には、指定避難所（小学校）へ行くメンバーと、集会所（町内会）へ行くメンバーに分かれて活動することにしています。

- ✓ 災害時の復旧が早いオール電化
- ✓ トイレは障がい者用と合わせて2つ用意
- ✓ 備蓄倉庫は女性の背丈に合わせ、高いところには設置せず、作業し易いよう段差をつけた
- ✓ 集会所の備蓄は町内会費で準備

こんないいことがあった！

東日本大震災が発災した時には、100名近くの女性と子どもが集会所に避難し、備蓄していたアルファ米と飲料水を提供した。

6 2 活動の工夫

できることを、できる人が、できるときに活動する

役員の女性たちは、自分の生活スタイルの変化に伴って、役員を辞めたり戻ったりしています。月に1回実施している役員会に、全員がそろったことは今までで一度もありませんが、できる範囲で活動を続けています。

p.6 Q1A1　p.12 Q5A1　p.13 Q5A3

▲役員会の会議の様子

こんな
いいことが
あった！

妻が地域活動を頑張ると、夫も協力してくれる。
お祭りと併せて防災訓練を行うと、子供が母親と遊びに来る。
すると、父親も一緒に付いてきてくれる。そんな家庭が多い。

6 3 女性コーディネーターの育成
市名坂小学校区避難所運営委員会事務局長として

避難所での言いにくい困りごとを聞き取るための平常時の取組

避難所運営委員会に、情報班や衛生班などと同じ並びに位置づけ、避難所の多様なニーズを聞き取るための女性コーディネーター部門を設けています。

コーディネーターの女性たちは、困り事カードをつくり、日頃から様々な問題について考え、対応を事前に考えられるようにしています。

▲女性コーディネーター

宮城県 仙台市
市名坂東町内会

<代表者>
市名坂東町内会長
市名坂小学校区避難所
運営委員会　事務局長　草 貴子

<連絡先>
草 貴子
電話：090-5836-2476

代表者からのメッセージ

地域活動において、その運営を気持ち良くスムーズに行う秘訣は「男性・女性と性別で区別することなく、それぞれの特性を尊重して活かすこと」、「私の役目を自任し、貴方の役目を認めながら身の丈にあった、オリジナリティのある活動を無理なく実践すること」だと考えています。
地域づくりは人と人との繋がり。私も出来る事から積極的に取り組み、その一翼を担っていきたいです。

活動事例 7

高知県 安芸市

川向地区防災会

＃規約の明記で男女同数に　＃本来もつ力を育む女性部会

組織概要

平成17年8月設立。役員の男女比はほぼ半々。防災会組織は町内会と同じエリアをカバーしている。また、53の組織からなる安芸市自主防災組織連絡協議会の役員は、2名ずつの男女同数。協議会の「女性部会」は、会長・副会長を担う人材育成の場にもなっている。

活動のきっかけ

男女共同参画の視点による「防災会」の必要性を確信！

町内会が母体となり防災会を立ち上げました。設立したものの、立ち上げに関わったメンバーの中には、「防災は主に行政、男性がやるものでは？」と思っている人もいました。阪神淡路大震災時の避難所運営において女性が抱えた課題について当事者から報告を受け、防災こそ男女共同参画の視点が必要であることが分かりました。そこから、積極的に、地域の女性と共に活動をはじめました。

課題

防災会の設立を提案するも、受け入れられなかったが…

p.9 Q3A3

町内会の総会で、会員の女性（現防災会事務局長）が防災会の設立について提案しましたが、当時の男性中心の役員は、女性の突然の提案に驚いたようで、上手く取り入れてもらうことはできませんでした。その後、女性は役員の男性に相談し、「町内会の役員らに事前に防災会の必要性を丁寧に説明し、理解を得ておくとよい」とのアドバイスを受け、次年度、その男性から提案する形で設立が決定しました。

7-1 規約への明記など

女性が組織に参画しやすい体制になる

- ✓ 防災会の規約に、副会長と副班長を「男女各1」と記載することで、男女比を崩さないようにしています。
- ✓ 役員数を増やすこと（21名）で、女性も役員になりやすく、防災に関わりやすくしています。
- ✓ 世帯主ではなく、実際に活動している人の名前を記載するようにしたことで、女性たちの名前が名簿に載り、女性の参加率が高まりました。
- ✓ 女性も男性もすべての活動や作業を体験しておくために、性別で分けずに役割を割り振っています。

p.7 Q2A1　p.8 Q3A1　p.9 Q3A2　p.14 Q6A1

川向地区防災会　規約　抜粋

- 第6条（役員）
  防災会には原則として、次の役員を置く。
  会長　1名　副会長　2名（男女各1）　事務局　1名
  班長　1名　副班長　2名（男女各1）　監査　1名
  委員　若干名（消防　日赤　リーダー長　リーダーなど）
- 第8条（役員の任期）
  役員の任期は総会の翌日から次期総会の日までとする。ただし再任を妨げないが会長の任期は最長2年とする。
  班長、副班長は原則として名簿の順とし、1年交代とする。
  班長は75歳以上は免除とする。また、健康上などの諸事情により免除することもある。

▲防災会の規約の抜粋

さらにいいこと！

役員の女性が増えることで、女性が自分の考えを伝えやすくなり、組織の中での女性の意見が強まった。

7 2 女性のアイデアを実現するための工夫

仲間のアイデアを、みんなで一緒に実現できる

女性が自由に発案した訓練メニューをみんなで協力しながら実現させています。女性も自分の意見を言えるようになったことで、やりたいことができるようになり、訓練時の非常用持出品の確認や夜間訓練、防災ビンゴなど、防災訓練のメニューが増えました。活動する本人たちが楽しんで行えることを大切にしています。

p.11 Q4A2　p.13 Q5A3

▲女性が発案した訓練などでの防災劇

これがコツ！

活動は完璧を目指さずに6割くらいが合格点。残り4割は、次に生かすための余白と考えると、次に繋げやすい。中学生は司会、高校生は訓練メニューの提案・実践などの役割を担い、世代を超えて積極的に参画しており、未来に向けたよりよい活動を目指している。

7 3 女性部会の活動

女性たちが安心して自由に発言し合う

安芸市自主防災組織連絡協議会の「女性部会」は、学習の場であり、企画立案する場でもあり、女性同士で不安なことを相談し合え、お互いに安心して集える場でもあります。市の危機管理課も寄り添ってくれます。

女性部会のメンバーは、女性部会で自分の考えを自分の言葉で伝え、意見交換し合う経験を積み重ねたことによって、自信をつけ、地域や自主防災組織連絡協議会の役員としても活躍しています。

p.9 Q3A3　p.14 Q6A1

▲女性部会の活動の様子

高知県 安芸市
川向地区防災会

＜代表者＞
事務局　仙頭 ゆかり

＜連絡先＞
安芸市 危機管理課
電話：0887-37-9101

代表者からのメッセージ

「防災活動へ！女性の参画が必要です。」災害は脆弱なところに、より大きなダメージをもたらします。現状は、女性は男性より介護、子育て、地域のお世話役に関わることが多いと思います。女性は皆の代弁者にもなりえます。女性は地域の牽引者でもあります！！日頃より、防災活動にかかわることがいざというときに力を発揮します。地域のつながりが命を助けます。その一歩を仲間たちと踏みだしましょう！！

活動事例

8

宮城県 仙台市

福住町町内会

＃夏祭りと防災訓練　＃学校・町内会・行政が連携

組織概要

昭和46年設立。平成23年3月11日に東日本大震災を経験。
執行部役員42名中、その半数以上が女性で構成されている。

活動のきっかけ

震災や防災部長としての経験から、女性の参画の重要性を実感！

以前、町内会の女性は、男性中心の活動を手伝うという意識でした。東日本大震災の時には、女性も主体的に活動しており、避難所で女性が行う仕事の多さ、女性が参画することの大事さに気が付きました。もともと町内会の行事が多く、役員の人数が多かったため、防災部長に女性が就任したことをきっかけに、女性が地域の防災活動に参画しやすくするための取組を始めました。

課題

男性主体の組織では意見を言いにくかったが…

現在町内会の防災部長を担っている女性は当初、男性主体の組織では発言しにくく、婦人部長の女性に相談して背中を押してもらいました。また、東日本大震災後、防災リーダー育成のための「仙台市地域防災リーダー（SBL）養成講座」を受講したことによって、SBLという肩書と防災の知識を手に入れ、それが自信となり、発言できるようになったり、仲間とつながることができ、活動の範囲が広がりました。
現在、町内会では防災部長の声かけにより、性別を問わずに率先して片付けを行ったり、男女ともに性別に基づいて役割を押し付けたりしないように意識するようになり、メンバーの価値観や考え方が10年かけて改善されてきました。個人の意識の変革が、少しずつ組織の変化へとつながっています。p.9 Q3A3

8-1 夏祭りと防災訓練をつなげる

少ない時間の中でも効率よく、地域で活動できる

夏祭りの役員が、防災訓練でも同じ役割のまま活動しています。それぞれの役割を、写真のようにエプロンの色で分けています。活動を毎年ノートに記録し、ノートを見ると何をするのか分かるようにしています。働く人が多い小中学生の母親たちは、少ない時間の中で上手く時間を使い、効率よく準備や片付けを行っています。

p.7 Q2A1　p.9 Q3A2　p.12 Q5A1

8 2 子どもたちとの合同訓練

ライフステージが変わっても、継続的に活動できる

小中学校の子どもたちに地域の防災訓練に参加してもらい、子供会の役員たちも協力しながら、消火や炊き出しなどの様々な訓練を行っています。

中学校の役員は、中学校を卒業後も婦人防火クラブとして活動し、継続的に活動に参加できるようにしています。
防災訓練の企画内容は、女性の防災部長と中学生担当の男性の役員が中心になり、中学生も巻き込んで一緒に考えることで、**子どもたちが地域の役員を知る機会になり、震災の時も活躍**してくれました。 p.6 Q1A1 p.13 Q5A3

▲中学生との防災訓練の様子

8 3 避難所運営協議会

議論の場で発言することで、課題を解決していける

避難所運営の際に施設管理者となる**学校の校長先生・教頭先生や、避難所運営委員長、SBL、行政、町内会長が一体となって協議会を開催**しています。

避難所運営委員会でも、協議会の一員として、避難所運営マニュアルの整備やトイレの洋式化について意見し、行政に取り入れてもらいました。

これをやったらうまくいった！

議論の場に女性が参加するだけでなく、そこで自分の意見を伝えることを大切にしている。意思決定の場で発言することで、他の女性たちも声を上げることにつながり、様々な立場の女性の声を拾い上げることができている。

宮城県 仙台市
福住町町内会

＜代表者＞
副会長・防災部長　大内 幸子

＜連絡先＞
大内 幸子
E-mail:greatbado@gmail.com

代表者からのメッセージ

災害は何時でも何処にでもやってきます。
災害時に女性のリーダーが必要であるとの教訓から、持続可能な防災・減災の取組を、諦めずに継続する事で、いつか必ず役に立つ時が来ます。

「女性の視点での防災」という言葉から
「男女で互いの視点を尊重し、補い合う」
そんな防災が理想です。

活動事例 9

静岡県 御前崎市

特定非営利活動法人 御前崎災害支援ネットワーク

＃研修で防災を自分ごとに　＃参加ではなく参画

組織概要

平成19年4月創設、平成25年10月に法人格設立。「女性のための防災・減災リーダー養成講座」を実施。

活動のきっかけ

自主防災組織の活動に関わる女性を増やしたい！

当時の静岡県と御前崎市の防災会議はほとんどが男性で**意思決定の場に女性が参画することが難しく**、地域の防災活動においても「女性は炊き出しに参加していれば良い」とされている状況でした。

現在代表を務める女性が、過去の災害時に現地でボランティアを行った際、女性が避難生活で直面する課題を目の当たりにし、女性が意思決定の過程や災害対応の現場に関わることの重要性を認識したことをきっかけに団体を立ち上げました。

団体は、自主防災組織の活動に関わる女性を育成したいという思いから、女性を対象とした研修を始めました。

9 1 研修の内容・講師の選出

防災を自分事として考えられるカリキュラム

避難所での女性の困り事や災害時の女性や子供に対する暴力に関する講義や、避難所の生活体験を通して、女性が防災を自分事として考えられるようなカリキュラムを企画しています。講師には、メディアで見かけて**話を聞きたいと思った先生に手紙やメールを送り、直接講義を依頼**しています。

今後、自分たちの地域ではどのような災害が起こるのか、災害から命を守るためにはどうしたら良いのか、そして被災後も生き延びるために何をしたら良いのかについて学ぶことができる研修になっています。 p.18 Q8A1

▲グループワークの様子

さらにいいこと！

講座を受講した女性たちが、研修後も防災に興味を持って様々な講義を受け、複数名でサークルをつくって活動したり、学校で防災講話を行ったりしている。

9 2 避難所運営訓練

自信を持って、避難所運営に「参画」できる

地域では避難所の運営訓練を行っていないため、自主防災組織の中に避難所を運営できる人がいない状況でした。そこで、女性が自信を持って避難所運営を行えるようになることを目指して、訓練を実施しています。

研修では、地域の防災活動における**女性の「参加」と「参画」の違い**について説明し、「参加ではいけないこと」、「計画の段階から女性も意見を発すること」など、**意思決定過程に携わることの重要性をメッセージとして強く伝えて**います。

▲研修のチラシ

▲訓練の様子

さらに
いいこと！

参加者の多くは、これまでは訓練に「行けばよい」という気持ちで参加していたが、研修の受講によって現状の訓練の内容は十分ではないことに気づいた。そこから、職場の防災担当になったり、地域で防災グループをつくって活動する女性が増えている。

静岡県 御前崎市
特定非営利活動法人
御前崎災害支援ネットワーク

<代表者>
代表理事　落合 美恵子

<連絡先>
特定非営利活動法人
御前崎災害支援ネットワーク
E-mail:omaezaki-dsnet@shore.ocn.ne.jp

代表者からのメッセージ

被災後の避難生活では多くの女性がリスクを感じて生活しています。超高齢時代で人口減少が進んでいる中、地域防災は男女がともに支え助け合う必要性があります。
近年、女性が防災に関係する講座や研修を受講する人が大幅に増加し、地域や職場、学校などで活躍を望む方が増えています。専門性の高い知識を得た女性を地域防災に生かすことが、強い防災力の未来が見えてくると感じています。

活動事例

10

岡山県 倉敷市 真備町

川辺復興プロジェクトあるく

#SNSの活用　#地域をつなぐハブ組織

組織概要

平成30年7月に発生した西日本豪雨の発災直後から、3名の女性により活動開始。
現在は4名の男性を含む20名のメンバーで活動に取り組んでいる。

活動のきっかけ

被災後、地域の住民が安心して暮らしていける地域をつくりたい！

西日本豪雨の発災直後、県外から支援物資を送ってもらえることになりました。そこで、地域の人たちのニーズを知ろうと、パパ・ママ友達20名程度でグループLINEを開設し、それがきっかけで、情報交換が始まりました。

できる人ができることを行っていく中で、被災者自らが被災者を支援することになり、被災後の地域課題を軽減するため団体を発足しました。

メンバーの自宅の片付けが落ち着いた後、子育てや生活の再建と同時に団体の活動を始め、コミュニティの再建とつながりづくりのサロンを行い、現在は、地域の支援拠点となっています。

課題

育児・仕事・家庭・活動のバランスを取るのが難しかったが…

役員は全員女性。子育て世代も多いため、子育てと仕事、家庭、”あるく”の活動のバランスを見つけられない、被災後ということもあり、子供たちの心のケアが出来ているのかという不安などで、当時は悩んでいるメンバーが多くいました。

それぞれの家庭で、家族で協力して家事を行い、家族も活動に巻き込むことで、子供にも夫にも理解を得られ、応援してくれるようになっています。今では、役員の家族も団体の一員として活躍しています。 p.12 Q5A1

10 1 グループLINE「川辺地区みんなの会」

LINEを使って活動を広げられる

発災直後は、地域の99%が浸水し、住民や情報が集まる避難所がなかった状況でした。**ケーブルテレビに映る情報をLINEから共有するなど、地域の人が必要とする確かな情報を発信する場**になっていきました。情報を求めている人を招待していき、開設日には、参加者が100名に上りました。地域住民を対象に、今後の川辺地区に関するアンケートを複数回実施。Googleフォームを使ってアンケートを作成し、LINEで告知しています。その結果は、活動の方針検討に利用しています。誰もが情報を得られるよう、**LINEを使い慣れない高齢者を中心に、使い方講座を開いています。** p.13 Q5A2

さらにいいこと！

メンバーは子育て世代の女性が多く、PTAのネットワークを活用した学校関係の情報交換が活発に行われた。LINEやGoogleフォームなど、多様なツールを活用することで、多くの人との情報交換や意見収集に、成功している。

10 2 地域のハブ組織としての役割を担う

「防災」をテーマに地域の団体とつながれる

防災をテーマに、町内会や協議会などの地域の団体とつながることで、川辺復興プロジェクトあるくが、**地域のハブ組織としての役割を担うように**なりました。多世代の女性メンバーが中心となり活動していることで、イベントや取組に対して様々なアプローチを行うことができ、より多くの人を巻き込むことができています。 p.21 Q9A3

▲防災カフェの様子

これがコツ！

地域の中で取り残されがちな町内会未加入世帯にもアプローチ。
地域全体で防災・減災に向けて取り組む体制づくりを目指している。

岡山県 倉敷市 真備町
川辺復興プロジェクトあるく

＜代表者＞
代表　槙原 聡美

＜連絡先＞
川辺復興プロジェクトあるく
電話：080-5752-0111

代表者からのメッセージ

災害に遭ってしまったことはとても辛く悲しい出来事でしたが、そのことによって、多くの人の温かい想いに支えられ、たくさんの出会いがあったことは私たちにとって宝物です。
皆さんからいただいた温かいパワーをバネにたくさんの人とのつながりを大切にしながら、災害前の町よりもっといい町に、そして災害に強い町づくりを目指して今後も活動をしていきたいと思います。

活動事例

11

千葉県流山市

流山子育てプロジェクト

#子育て世代の防災活動　#ガイドブックの作成

組織概要

平成22年発足。平成25年度にNPO法人パートナーシップながれやまと協働で、「私にもできる防災・減災ノートIN流山」を刊行。 p.17 Q7A3

活動のきっかけ

子育て中の被災経験をもとに活動を開始

NPO法人パートナーシップながれやまが流山市から受託していた、子育て中の女性を対象とした男女共同参画講座「わたしへのごほうび講座」の修了者たちが、男女共同参画の学習を継続するために発足させた流山子育てプロジェクト。

活動当初は、ベビーカーの街歩きマップの作成などを行っていましたが、**東日本大震災の発災後、パートナーが帰宅困難者になり家族が離れ離れになる問題**や、南相馬市から避難してきた子育て世帯との出会いなどを通して、**防災と男女共同参画の課題を実感し、防災分野の活動を開始**しました。

▲「わたしへのごほうび講座」の様子

課題

自主グループをつくって活動するには困難があったが…

p.12 Q5A1

自主グループを作って活動することには、活動場所や活動資金の確保を始め、初めての活動を子連れで行うため、様々なハードルがありました。

そこで、流山市から男女共同参画分野の事業委託を受け、「わたしへのごほうび講座」を企画運営していたNPO法人パートナーシップながれやまから支援を受けました。NPO法人パートナーシップながれやまには、団体メンバーの親世代の女性たちが多く、**会議中の子供の見守りや活動のアドバイス、資金や場所の提供など、様々なサポートを受け**、活動を広げることができました。

11 1 私にもできる防災・減災ノートIN流山

自分の経験から思いを共有して、活動を広げられる

プロジェクトを発足した際のメンバーには、東日本大震災が発生した時、東京に勤務する夫が帰宅できず、**子供を一人で守らなければならない状況だった**女性もいました。**同じ経験をした子育て世代で思いを共有**する中、流山市民活動公益補助金の活用とNPO法人パートナーシップながれやまからの資金提供を受け、「私にもできる防災・減災ノートIN流山」というハンドブックを作成しました。

ハンドブックは手に取った人が書き込めるようにノート形式にしました。ハンドブックを活用した出前講座を企画したところ、当初はあまり反応がありませんでしたが、流山市のコミュニティ課から紹介を受けた自治会で講座を実施したところ、自治会長たちの口コミによって、活動の幅が広がりました。

◀防災出前講座「防災寺子屋sole!(そ～れ)」の様子

さらにいいこと！

活動の幅が広がることで、子育て世代だけでなく高齢者世代や地域に住む外国人の防災対策に不安を感じる自治会長たちにも講座が広がり、外国語版の作成につながった。取組が広がることで外部から認められ、資金を調達できるようになり、団体として自立できた。

11 2 地方防災会議に委員として参画

プロジェクトのメンバーが公募枠に応募

「私にもできる防災・減災ノートIN流山」を作成していく中で、メンバーは行政の事業執行の仕組みを知り、**地方防災会議に委員として参画することの重要性を学び、地方防災会議の公募枠に応募して委員になり、その後さらにもう1人も委員になりました。**また、行政改革審議会や男女共同参画審議会、市民参加推進委員会などの委員や、市会議員になったメンバーもいます。 p.20 Q9A1

千葉県 流山市
流山子育てプロジェクト

＜代表者＞
代表　青木 八重子

＜連絡先＞
流山子育てプロジェクト
電話：090-3577-4654

代表者からのメッセージ

防災の活動を通じて学んだことは、防災とはエンパワメントだということです。「いかに命を守り、暮らしを継続させるか」を考えることは、自分や家族、地域の未来を考えること。家族の中でケア役割を担うことの多い女性にこそ、防災に参画する意義と、課題を発見し、解決に取り組み、それを伝える能力があります。これからも防災活動を通じて、女性の力で地域をエンパワメントしていきたいです。

活動事例 12

神奈川県平塚市

女性防災クラブ平塚パワーズ

#防災グッズの開発　#やりたい活動をみんなで形に

組織概要

平塚市が実施した防災研修を受講した30名の女性によって、平成8年5月に結成。
結成から26年間、のべ300名のメンバーが活動している。 p.17 Q7A3

活動のきっかけ

女性の目線で分かりやすく防災を伝えたい！

初めの10年間は、三角巾の使い方やロープワークなど、消防職員や市の防災課職員から学んだ防災の基礎知識をそのまま伝える活動を行っていました。

結成から10年後、平塚パワーズは市から資金面も含めて完全に独立。独立を機に、女性の目線を大切にした、自分たちがやりたい活動を行おうと、会員同士の意見交換や知識の共有を行い、防災グッズの開発を始めました。

課題

団体の活動を自治会では受け入れてもらえなかったが…

当初は、女性が講習を行うことを理解してもらえず、自治会に受け入れてもらえませんでした。

生活の身近なものを活用し、自信を持って紹介できるグッズを開発したことがきっかけで興味を持ってもらうことができ、自治会と共に活動するようになりました。

日ごろの活動では、ひらつか市民活動センターを活用しています。センターの広報誌などで活動を取り上げてもらうことで、新たな活動の展開につながっています。 p.21 Q9A2

▲自治会との活動の様子

12 1 防災グッズの開発

身近なもので作ったグッズを持って、自信を持って説明できる

月に一度の会議では、**メンバーから出されたアイデアをみんなで形にして、身近なものを使った防災グッズを多数開発**しています。講座でグッズの紹介を行うときは、メンバー同士で説明の練習をしあって、お互いの良いところを取り入れながらブラッシュアップしています。人前で発表するときには、普段から使っている自分自身の言葉で伝えることを何よりも大切にしています。 p.10 Q4A1 p.15 Q6A2

さらにいいこと！

自分たちでやりたいことを提案し合い、協力して実現することで、それぞれが楽しんで活動している。生活に身近なものを使ったグッズは、女性から受け入れられやすい。自分の言葉で伝えることによって、メンバーたちの豊かな表現と一人ひとりの自信につながっている。

▲グッズを見せながら説明している様子

12 2 情報共有

みんなが具体的な依頼内容を共有できる

講習の依頼が入ると、週に3～4回実施している役員会議で依頼表を作成し、メンバーに依頼します。

その場に参加していないメンバーも、一目見て会議の内容が把握できるよう工夫しています。活動の中では、**どんなに小さなことでも共有することを大事にする**ことで、会員の誰もが知っている、理解しているよう配慮しています。

p.13 Q5A2

さらにいいこと！

地域ごとに6つのブロックに分かれて活動しているが、1つのブロックが考えた防災グッズを他のブロックでも同じように実践できるようになっている。

神奈川県 平塚市
女性防災クラブ
平塚パワーズ

＜代表者＞
会長　菅野 由美子

＜連絡先＞
平塚市 市長室 災害対策課
電話：0463-23-1111（代表）

代表者からのメッセージ

防災活動を進めていく時に必要なことは、協働できる方々との連携力ではないでしょうか。設立当初は、災害対策課から指導をうけ、現在は市民対象の防災講座のコラボを行っています。講座には平塚市内の自治会関係者をはじめ、市外からの防災団体の参加もあり、交流の場づくりにもなっています。これからも繋がりながら防災活動の輪を広げていきます。皆さんの参加をお待ちしています！

有識者からのメッセージ

関西学院大学
災害復興制度研究所
主任研究員・准教授

斉藤 容子

一人一人の視点は違う。
だからこそ多くの視点が必要。

「防災」「災害」といった言葉を聞くと、まだ自分とは関係のない世界の話と感じる方も多いのではないでしょうか。同時に各地で頻発する地震や毎年のように発生する豪雨。少しずつ環境が変化してきていることも感じている方もいるでしょう。誰しもが生きているうちに一度または複数回の災害を経験する時代に私たちは生きているとも言えます。行政や地域防災組織の方々に任せていればいいと思っていたことを少しだけこういった本を通して自分で学んでみてください。そして自分たちの住む地域は本当に大丈夫なのかという疑いの目で見てみてください。そのときの気づきはもしかすると誰も気づいていないのかもしれません。またはそんなとりとめのないことをと思っているかもしれません。（あなたにとってはそれがとりとめのないことではないことであっても！）一人一人の視点は違う。だからこそ多くの視点が必要。こんな当たり前のことが災害時という状況では見過ごされてしまいます。いざというときに準備していてよかったと思えるよう考えていきましょう。

香川大学
四国危機管理教育・研究・
地域連携推進機構（IECMS）
地域強靭化研究センター
創造工学部
防災・危機管理コース　併任

磯打 千雅子

取り組みのひとつひとつが
多くの方の笑顔につながる。

この事例集を手に取って下さった方は、きっと「もっと地域を良くしたい」「自分の住むまちが大好き！」という想いにあふれていらっしゃる方だと思います。そんなお気持ちで活動していらっしゃるお姿、とっても魅力的で、私にとっては憧れです！
研究活動でいわゆる「先進地域」にお伺いすることが多いのですが、そのような地域では必ずと言って良いほど女性や子どもさんが楽しんで活動されているお姿を拝見します。地域イベントは土日に開催されることも多いでしょうから、小さなお子さんやご家族も気軽に参加できる雰囲気があると、担い手ご自身も積極的に活動しやすくなって結果としてみんなが活き活きと楽しめるのではないでしょうか。活動することで笑顔が増える。みなさんのお取り組みひとつひとつが多くの方の笑顔につながっています。そして、何よりみなさんご自身が笑顔で活動できますように。この事例集がそのためのヒントになればうれしいです。

横浜市立大学
国際教養学部
都市学系
都市防災計画研究室
准教授

石川 永子

女性が意思決定の場に参画することが、地域の問題解決につながる。

東日本大震災で甚大な被害があったある自治体で、避難所運営をされた地域代表の方々にお話をうかがって記録を作成した際に、代表は大半が男性ですが、その多くが「避難所の運営や在宅避難者を含めた物資配布のマネジメントには、女性が単に作業をするだけではなくて、意思決定の場に参加してその意見を反映するようになってから、うまくまわるようになった。」と実感を込めておっしゃっていました。地域が孤立する極限状態から長期の災害対応のなかで、何度も深刻な困難やもめごとが起こったが、地域の多様な住民の状況に細やかに気を配り、状況に応じて柔軟に判断し、人的なネットワークを活かし動く女性の力が問題解決につながると実感した、とのことでした。
平時の地域組織では男性中心に意思決定され、防災関連の訓練でも男女共同参画が「そうしなければならない」という綺麗ごとのままで、実態に落とし込むのにハードルもあり、悩むこともありますが、実際に困難な場では大きな力になることを示しているのだと思います。

岐阜大学
流域圏科学研究センター
准教授

小山 真紀

よりよい未来には、当事者参加が欠かせない。

誰にとっても無理のない環境を実現するには、当事者参加が欠かせません。例えば、子どもに関わってこなかった人だけで子どもの事を決めたり、栄養バランスを考えたことがない人だけで、災害時の食の問題を決めたり、障がいについてよく知らない人だけで障がいのある人の支援対策を決めたらどうなるでしょう？望ましい結果が得られる可能性は低くなりますよね。「何でこんなことに？」というようなことは、悪意でなく、むしろ善意で、ただし、「気づかない」ことによって起きてしまいます。だからこそ、女性をはじめ、いろんな人が参加できる環境を作っていきましょう。なかなか思うように活動できない人もいるかも知れませんが、「変えられないのは過去と他人、変えられるのは自分と未来」です。何とかしたい未来があるなら、それに気づいた自分自身が動くことが一番の近道です。悩むときには相談に乗りますので、無理なく楽しくありたい形に向けて一歩進んでみませんか？

これからの地域防災
女性が力を発揮するための

ポイントチェック

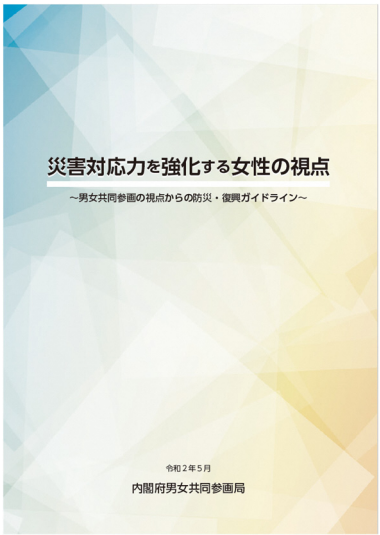
あなたの地域の防災活動では、女性が力を発揮できていますか？
チェックリストを使って、現状を確認してみましょう。

- □ 防災を日常とつなげた訓練を実施していますか？
- □ 開催曜日、場所、時刻などに配慮していますか？
- □ 女性たちの活動を地域の男性が知る機会はありますか？
- □ 役員の女性の割合や役割分担など、組織のルールを決めていますか？
- □ 一人あたりの活動の負担が重くならないよう配慮していますか？
- □ 一緒に活動する人を見つけられる機会はありますか？
- □ 会議で参加者全員が話しやすくなる工夫をしていますか？
- □ 女性も男性もともに理解できる防災研修を実施していますか？
- □ 女性たちが活動をPRする機会はありますか？
- □ 防災をテーマに活動する団体同士のネットワークはありますか？

お役立ち情報

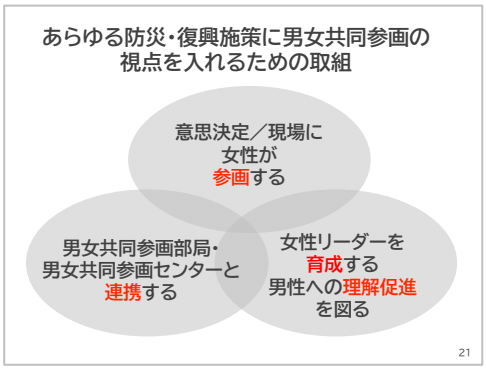
災害対応力を強化する女性の視点 ～男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン～ （令和2年5月）

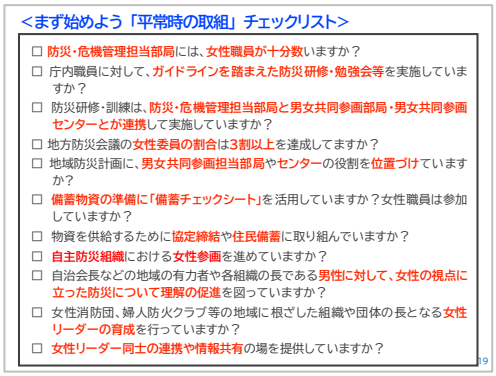
https://www.gender.go.jp/policy/saigai/fukkou/pdf/guidelene_01.pdf



「災害対応力を強化する女性の視点」実践的学習プログラム （令和3年5月）

https://www.gender.go.jp/policy/saigai/program/index.html





参考文献

- 内閣府男女共同参画局「防災における女性のリーダーシップ推進に関する調査研究報告書」
  https://www.gender.go.jp/policy/saigai/pdf/kenshu_bousai_houkoku.pdf
  （平成２８年３月）
- 内閣府男女共同参画局「平成２９年度 地域活動における男女共同参画の推進に関する実践的調査研究報告書」
  https://www.gender.go.jp/kaigi/kento/chiiki/pdf/report_h29.pdf
  （平成３０年３月）
- 池田恵子、浅野幸子「市区町村における男女共同参画・多様性配慮の視点による防災施策の実践状況：地域コミュニティの防災体制に定着するための課題」
  https://www.jstage.jst.go.jp/article/jisss/29/0/29_165/_pdf
  （平成２８年11月）
- 内閣府「平成２２年版 防災白書」
  https://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/h22/bousai2010/html/honbun/0b_toku_04.htm
  （平成２２年７月）

女性が力を発揮するこれからの地域防災
～ノウハウ・活動事例集～

発行日　令和４年３月
発行者　内閣府男女共同参画局
編集・協力　株式会社サイエンスクラフト
装丁・デザイン　髙木　凜

地域の防災で女性が力を発揮するということは、

○防災活動の担い手が増え、子供や若者、高齢者や障害者等の
多様な視点が活動に反映されます

○防災を自分事として考え、一人ひとりが災害に備え
行動するようになります

○性別で役割分担せず、男女が共に防災に取り組むことで、
地域組織の負担が減ります

○地域組織の運営が柔軟になり、それぞれの生活に合わせて
防災活動を続けられるようになります

○男性が女性の防災活動を知る機会が増え、お互いの理解が深まり、
地域の共助力が高まります

○必要な情報が幅広い世代に伝わるようになります

○学校等との連携が強化され、
将来の防災人材の育成につながります

女性がさらに力を発揮できれば
災害に強い地域をつくることができます

さあ、できることから始めましょう